

これからの福島のための責務

飯舘C班 8月

福田 光希・庄子 登真・菊田 雄成
定森 佑夏・野平 俊介・岡田 卓巳

研究者の責務（の経緯）

- ・キノコの種類によって放射性セシウムの吸収率がどのように変わるか
- ・野生のキノコを採取



シロオニタケ(菌根菌)



キホウキタケ(菌根菌)



チャツムタケ(木材腐朽菌 / 腐生菌)



カイメンタケ(木材腐朽菌 / 腐生菌)

研究者の責務（の経緯）

- ・別の班では、出荷用ブルーベリーを採取、測定していた
- ・技術的に測れるからといって

何でも測って公表していいわけではないのでは？

- ・自分たちの測定行為が、現地の人々に与える影響や感情をまで考えて行動できているか？

など議論が生まれた

⇒科学者として求められる姿勢はなんだろう？？？



研究者の責務

- ・ 中立性と厳密性
- ・ 社会的な影響に対して責任を持つ
 - ・ 透明性を担保する（結果の公表 ⇒ 知見の共有・検証）
一方で...
 - ・ 「検出」という言葉のネガティブなイメージ ⇒ 風評被害
 - ・ 原発事故直後のお話（東北大学の先生）
緊急性は無かったので、公表する時期や方法を慎重に検討したそう



研究者の責務



- ・ 市民との関わり方（リスクコミュニケーションの在り方）
 - ・ 「安全」と「安心」は違う
 - ・ バックグラウンドの値、基準値と比較して、どの程度のリスクかを示す
 - ・ 「ベクレル」「シーベルト」を噛み砕いて説明
 - ・ 市民が不安に感じていることは何か？ ⇒ 対話が大事
 - ・ 信頼関係を築く
 - ゼロリスクはない 不確実なことも誠実に

村の職員さん

現状

- ・ 農業再開のスタートラインに立った状態
- ・ 各々の農家が各自で自分が好きな作物を栽培

展望

- ・ 栽培作物を集約しブランド化
- ・ 大規模農家を呼び込むとともに、小規模農家への支援も両立させる
- ・ 企業誘致・広報活動



山田さん（畜産）

- ・ 震災を契機に規模拡大
- ・ 他の農家が手放した農地で飼料栽培
- ・ 肉牛ではなく子牛の生産に特化（風評被害を受けて）



考えたこと

- ・ 失われた時間は戻らない 人の力ではどうしようもないこともある
- ・ その状況で何ができるか
- ・ 自分たちにできることは何か？

東電

- ・ 情報を発信し続ける
 - ・ 廃炉に向けた取り組みはどれくらい進んでいるのか
 - ・ 原子力について正しい理解を広める
- ・ 組織内で事故を次世代に継承する
 - ・ 当時作業員でなかった人にも伝える
- ・ 作業に携わる人々の安全性を守る



国（環境省）

一番国の存在を感じたのは 中間貯蔵施設

特に小学校・老人ホームでは、そこに人々の暮らしがあったことを痛感した

責務

⇒ もとに戻すこと・国のみんなで負担することをあきらめないこと
(処理土壌)

分からなかったこと：
元通りにすることに意味があるのか



浜通り研修参加者



- ・ 現地に行くことの大切さ

→原子力発電所、飯館村の新聞、現地の人たちの声...

- ・ 自分自身で知ろうとする

→自分の考えを持つ 直接感ずることへの重要性...

- ・ 会話、学びを止めない

→ 研修ならではの色々な人との会話を通して...

- ・ 伝える、きっかけ作り

→研修は終わってからも大事...自分の中で終わらせない

国民として、我々にできること

1. 知る

先入観ではなく、現地の
状況や事実を知る



2. 伝える

見聞きしたことを、
正確に周囲へ伝える



3. 関わり続ける

忘れず、選択・訪問・
学びを続ける



復興を誰かの問題にしないことが、
我々にできることではないか

ご清聴ありがとうございました

